

令和3年度 横須賀美術館運営評価委員会

●横須賀美術館運営評価委員会（令和3年度第3回）

日時：令和4年（2022年）3月30日（水）13時00分～15時00分

場所：横須賀美術館 ワークショップ室

1. 出席者

委員会 委員長	小林 照夫	関東学院大学名誉教授
委員（委員長職務代理者）		
	菊池 匡文	横須賀商工会議所専務理事
委員	柏木 智雄	横浜美術館副館長
委員	濱田 真行	観音崎京急ホテル取締役社長
委員	三浦 匡	横須賀市立馬堀小学校校長
委員	川口 香世	市民委員
委員	鈴木 優子	市民委員

館長	教育総務部長	佐々木暢行
事務局	美術館運営課長	岡本 剛彦
	美術館運営課管理運営係長	下田 哲央
	美術館運営課（学芸員主査）	富田 康子
	美術館運営課（学芸員主査）	工藤 香澄
	美術館運営課（管理運営係）	久保田 毅

2. 議事

(1) 令和4年度 横須賀美術館 事業計画書（案）について

3. その他

(1) 来館者アンケートの見直しについて

(2) 今後のスケジュールについて

会議録

【開会】

〔事務局・下田〕：定刻より少し前ですが、みなさんお揃いになりましたので、「令和3年度 第3回横須賀美術館運営評価委員会」を開会いたします。

本日は、お忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。私は、委員長に引き継ぐまで司会を担当させていただきます美術館運営課管理運営係の下田と申します。よろしくお願いいたします。

委員7名全員にご出席いただいております。また、本日傍聴者はいませんのでご報告いたします。

【1 部長あいさつ】

〔事務局・下田〕：それでは、ここで事務局を代表しまして、館長の佐々木より、ご挨拶させていただきます。

〔佐々木館長〕：横須賀美術館長の佐々木でございます。

本日は、ご多忙の中、令和3年度 横須賀美術館 第3回運営評価委員会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

また、年度末のお忙しい中、事業計画案をご確認いただき、感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の影響により、当館は今年度、8月下旬から9月いっぱいまで、臨時休館となりました。その期間はすべての企画展やイベントが中止となり、それ以外の期間も状況に応じて事業を行ってきましましたが、従来のように取り組むことができませんでした。まん延防止等重点措置が解除されましたが、一度、落ち着きを見せた新型コロナウイルス感染症もオミクロン株の影響により、感染者数が高止まりしている状況です。

美術館では、臨時休館以降、感染拡大防止の措置を取りながら開館していますが、令和元年度に15万人を超えた年間観覧者は、令和2年度は48,827人、令和3年度は2月末時点で8万人余りと大きく落ち込んでいる状況です。

その中で、本日は、令和4年度事業計画案についてご審議いただきます。

令和4年度は開館15周年にあたります。そして、組織としても、教育委員会から市長部局へ移管します。本格的な「with コロナの時代」の中で、さらに一步を踏み出す年にしたいと考えています。

具体的には、

- ・新たなジャンルの展覧会開催
- ・知名度が高い名品による展覧会
- ・多言語（日本語・英語）表記の推進
- ・昨年度に引き続き、2回目の美術品の購入

などの施策を進めていきます。

この後、事務局よりこれらを含んだ事業計画書の案について説明させていただきますので、委員の皆様からは、ぜひ、忌憚のないご意見を頂戴できればと思っております。

なお、ご審議いただく事業計画案は、本日いただくご意見等を加味・修正したうえで確定とさせていただきます。

それでは、本日もよろしくお願いいいたします。

【2 議事（1）令和4年度 横須賀美術館 事業計画書（案）について】

〔事務局・下田〕： それでは、本日の資料の確認をさせていただきます。

まず、本日、机上去用意させていただきましたものは、次第、資料1「運営評価委員会スケジュール」、「来館者向けアンケート改正案」、「運営評価委員会スケジュール」、「運営評価委員会 委員からの提案とその対応」です。

併せて、参考資料として、「令和4年度展覧会スケジュール」、「横須賀こずえ展」チラシ、「フランスモダンポスター展」チラシ、「矢崎千代二展」チラシを配布させていただいております。

また、委員の皆様には事前にお送りさせていただいております資料ですが、「令和4年度 横須賀美術館 事業計画書（案）」の資料でございます。

以上が本日の資料でございます。不足等ございませんでしょうか。

それでは、小林委員長、議事の進行をお願いいたします。

〔小林委員長〕： それでは、次第に沿って、議事を進めます。

議事（1）令和4年度 横須賀美術館 事業計画書（案）について、事務局から説明をお願いします。

〔事務局・下田〕： 令和4年度 横須賀美術館 事業計画書（案）についてご説明させていただきます。

この事業計画案につきましては、新年度予算として、先日、市議会で議決された事業、また、予算には出てこない部分を含め、新年度開始に先立ち委員の皆様へ令和4年度の計画を事前説明することにより、ご意見をいただき、事業の早期改善に役立て、かつ業務の進行管理を行っていきたいと考えております。

計画書内の令和3年度の数値は全て12月末現在に統一させていただいておりますので、ご承知おきくださいますようお願いいたします。

それでは、お手元の資料「横須賀美術館 事業計画書（案）」の1ページをご覧ください。

令和4年度は、「新たな一步を踏み出す年に」という方針のもと、美術館の運営を進めて参りたいと考えております。これは、開館15周年を迎える年に、今までの教育委員会から新しく市長部局である文化スポーツ観光部に移管する年、ということで、引き

続き記載しております。

続きまして、当館の使命、目標を1ページ下段に記載しております。この目標に基づき、事業を展開して参りたいと考えています。

1ページの最下段をご覧ください。本事業計画書では、個々の達成目標、数値目標について、原則『新型コロナウイルス感染症における影響を見込まない数値』としております。しかし、影響が出る可能性が高い事業に関しては、「ただし書き」としてその影響、具体的には、定員減や中止の可能性に言及させていただきました。

2ページをご覧ください。こちらは新型コロナウイルス感染拡大に伴い、臨時休館が始まった令和2年度からの取り組みを記載しております。

それでは、次のページから始まる事業計画を各担当から昨年度からの変更点を中心にご説明させていただきます。

[事務局・下田]：「I 美術を通じた交流を促進する」のうち「① 広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる」の事業計画及び目標について説明させていただきます。

事業計画書の3ページをご覧ください。まず、令和4年度の事業計画ですが、「1 展覧会の実施」につきましては、例年のとおり5つの企画展と児童・生徒造形作品展の開催を予定しています。

展覧会名、会期及び観覧者の見込み数は記載のとおりです。年間観覧者見込み116,000人といたしました。

ここで観覧者数の目標について、説明させていただきます。

横須賀市では、今年度、新しい実施計画「横須賀再興プラン」を策定しました。この横須賀再興プランは、令和4年度から令和7年度までの4年間の主要な事業を示した計画書です。

この再興プランにおいて、横須賀美術館は、令和7年度に展覧会を開催する経費を観覧料で賄えるようにすることを目標とすることとしました。

そのための目標観覧者数を令和4年度は120,000人、令和5年度は125,000人、令和6年度は133,000人、令和7年度は141,000人まで毎年度増加させる計画としています。

令和4年度はその初年度として、今までの来館者の目標110,000人から10,000人増加させています。

なお、お手もとの計画書は、令和3年度に始まった企画展ミロコマチコ展の4月の来館者4,000人が入っていませんので、計画書の記載としては「116,000人」となっています。

次に「2 広報・集客促進事業」ですが、(1)～(5)については、従来どおりの計画としております。

令和4年度は、「(6) オンラインコンテンツ等の拡充」の部分を変更しております。今年度実施しましたウェブサイトリニューアルとそれに伴うオンラインでも楽しめるコンテンツのさらなる充実、Wi-Fi環境の整備により利用可能となった「ポケット学芸

員」のコンテンツの充実を図っていきます。

その他の取り組みにつきましては記載にあるとおりです。

次に「達成目標」ですが、5ページをご覧ください。年間観覧者数12万人を目標としております。

「実施目標」については、中段に記載のとおりで、今年度との変更点はありません。

〔事務局・富田〕：続きまして、「② 市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。」について説明させていただきます。6ページをご覧ください。

この項目は、市民ボランティアとの協働事業に関する部分です。横須賀美術館のボランティア活動には、「ギャラリートークボランティア」、「小学生美術鑑賞会ボランティア」、「みんなのアトリエボランティア」、「プロジェクトボランティア」、「プロジェクト当日ボランティア」の5つがあります。

事業計画では、この5つを活動テーマごとに予定される活動の回数として記しています。多くの項目で、前年度から、この計画されている回数に変更となっていますので、順番にご説明します。

まず、「(1) ギャラリートークボランティア」は、年76回が42回になっています。これは、所蔵品展のギャラリートーク再開を令和4年度の後半からと見込み、回数を減らしたためです。

次に「(2) 小学生美術鑑賞会ボランティア」は、例年どおり全校で実施されると見込み、51回で変更ありません。

「(3) みんなのアトリエボランティア」は、対面方式での実施のため、月1回から年4回に減らし、実施しない分をオンライン形式で補うこととしているため、対面形式のボランティア参加人数を減らしています。

ボランティアが企画してくださる「(4) プロジェクトボランティア」は、これまで春、夏、秋の3回行っていたイベントを、春、冬の2回行うこととしたため、その活動の回数を30回から20回に変更しています。夏のイベントを行わないこととした理由としては、近年の猛暑により、夏のイベント開催は、ボランティア、参加者双方にとって負担が大きく、身体的な危険も大きいと判断したためです。

それによって「(5) プロジェクト当日ボランティア」も3回から2回に変更しました。

次に8ページをご覧ください。達成目標についてです。令和3年度は、ギャラリートークボランティア、プロジェクトボランティアの一部活動を再開しましたが、今後の展望が見えにくい状況であること、また、プロジェクトボランティアのイベント回数そのものを減じていることから、ここでの目標値も、参加者数「延べ2,400人」から「延べ1,700人」と変更しています。事業ごとの内訳は、8ページ下段の表にございます。

続きまして9ページの実施目標についてです。こちらは例年とほぼ同じ内容となっています。

〔事務局・工藤〕：「Ⅱ 美術に対する理解と親しみを深める」「③ 調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。」についてご説明します。

10 ページをご覧ください。事業計画「1 展覧会事業」から（1）企画展です。

幅広い関心にこたえるため、特定のテーマによる展示を自主事業として、6回開催を予定しています。なお、令和4年度は開館15周年という節目の年にあたります。

春には「①フランス・モダン・ポスター展」として、フランスの近代ポスターで構成する展覧会を開催します。

夏には、「②運慶—鎌倉幕府と三浦一族」と題して、横須賀市内にある国指定重要文化財である運慶仏および関連作による展示を行います。当館では、初めて国指定重要文化財を公開する機会となります。また、この運慶展に関連して、展示室内で、出演・観世義正さん、野村萬斎さんによる能楽「七騎落」公演を行います。

秋には、生誕120年の節目に「③猪熊弦一郎展」を開催します。

11月には、ヴィンテージのスカジャンを中心にした「④PRIDE OF YOKOSUKA スカジャン展」を開催します。

そして、2月からそしてキャラクターデザインの先駆者であり、谷内六郎とかかわりのある「土方重巳」展及び、毎年開催している「児童生徒造形作品展」を予定しています。

11 ページをご覧ください。

（2）所蔵品展・谷内六郎《週刊新潮表紙絵》展についても、年4回それぞれテーマ性のある特集を組み、所蔵品を中心に紹介します。その中でも、とりわけ「① 第1期所蔵品展」ですが、ふるさと納税を活用して、今年度初めて矢崎千代二の《秋の園》という作品を購入することができました。その新収蔵を記念して、「生誕150年 矢崎千代二展」を特集として組みます。

同様に、横須賀出身である漫画家の、小田扉の『横須賀こずえ』展を開催します。

「2 教育普及事業」については、開催回数または参加人数を新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、定員を変えながら開催してまいります。

13 ページをご覧ください。達成目標は、「企画展の満足度80%以上」を掲げています。なお、以前の委員会においてご提案いただきましたが、10月25日（月）からの平日は、受付でアンケートを全員に配布することにし、アンケート回答者の母数を増やしています。その結果の数値となっていますが、令和3年度12月末までの数値は、90.8%となっています。

中段にある実施目標は、令和3年度からの変更はありません。

〔事務局・富田〕：「④ 学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。」についてご説明いたします。

15 ページをご覧ください。まず、事業計画は「1 学校との連携」に関する項目とし

て6つ、「2 子どもたちへの美術館教育」に関する項目として4つ、それぞれあげています。活動の内容や回数について、令和3年度から大きな変更点はありません。

続いて、16 ページの達成目標をご覧ください。「中学生以下の年間観覧者数 22,000 人」としており、こちらも例年と同様です。

下段にあります実施目標についても、例年とほとんど変わりありません。今後も感染状況によって、事業の中止や規模の縮小なども想定される場所ですが、その場合でもワークショップのオンライン開催など、これまでの経験を生かしながら、ここに掲げた実施目標の実現に少しでも近づけるよう活動を展開してまいります。

〔事務局・富田〕：「⑤ 所蔵作品を充実させ、適切に管理する。」についてご説明します。

この項目は美術品の収集・保存・管理等に関する項目です。事業計画であげている5つの項目と、19 ページ下段の達成目標で設定した実施回数は前年度から変更はありません。

18 ページにお戻りください。「5 美術品等取得基金」について補足いたします。令和元年4月から「美術品等取得基金」がスタートしており、横須賀市のふるさと納税による寄附金を美術品等取得基金に積み立てて作品購入に充てています。

令和3年度は、矢崎千代二の初期作品《秋の園》を購入しました。この作品は令和4年4月9日から始まる、第1期所蔵品展で初公開します。

令和3年度の寄附額はおよそ300万円となる見込みであり、令和4年度はこれを原資として、優れた作品を購入できるよう、具体的に検討を進めてまいります。

また、令和3年度にはふるさと納税の寄附をアピールするロゴを作成しました。令和4年度は、これを活用し、今後もより多くの寄付を受けられるよう積極的にPRしていきます。

〔事務局・下田〕：「Ⅲ 訪れるすべての人にやすらぎの場を提供する」「⑥ 利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する」についてご説明いたします。

20 ページをご覧ください。事業計画の記載内容については、令和3年度と同様としています。

その下にあります、令和4年度の主な修繕の予定をご覧ください。大きな工事の予定はなく、例年と同様の本館屋根シーリング修繕のみを予定しています。

達成目標についても、例年と同様としています。

21 ページをご覧ください。上段に来館者アンケートの結果を記載しています。12月末現在で、館内アンケートの満足度95.6%、スタッフ対応の満足度92.6%と、比較的高い満足度を維持できています。

実施目標についても例年と同じ目標としています。

〔事務局・富田〕：「⑦ すべての人にとって利用しやすい環境を整える。」についてご説明いたします。

22 ページをご覧ください。こちらは、一般的に美術館に訪れることが難しいと思われるがちな方へのサービスに関する項目で、特に障害のある方に向け、美術館を楽しんでいただくための環境を整えることを目標としています。

事業計画として、4項目をあげています。「1 触察図」は、令和3年度から着手した新しい取り組みで、令和4年度も引き続きこの活動を展開していく予定です。

達成目標は、従来「福祉関連事業への参加者数延べ240人以上」としてきたところですが、これを「60人以上」に大幅に下げています。達成目標を大幅に下げた理由は3つあります。

1つ目は、「1 触察図」に関連しますが、従来行ってきた、視覚障害の方に向けた、視覚障害のある方への美術館のアプローチを紹介する講演会を中止とし、触察図の作成に切り替えたことによる事業見直しに伴うものです。

2つ目は、かながわ国際交流財団との連携事業であったマルパが終了し、ワークショップやセミナーなどの事業がなくなったことによるものです。

3つ目は、福祉イベントをこれまでは様々な方が参加できるものとして実施してきましたが、令和4年度については、障害当事者を対象とする小規模で限定的なものとして実施する計画としているためです。

各事業の内訳については、23 ページ上段の表をご覧ください。

中段にある実施目標については、大きな変更はありません。目標とする人数は変更しましたが、この実施目標に向けて、より確実な成果を上げることができるよう、事業計画に基づいて事業を実施していきたいと考えています。

[事務局・下田]：「⑧ 事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する」についてご説明いたします。

24 ページをご覧ください。達成目標は、電気使用量、水道使用量、事務用紙使用枚数を過去2年間の平均値を目安としています。

目標設定の理由をご覧ください。これまでの目標は、直近3年間の平均値としていました。しかし、令和2年度および令和3年度は臨時休館を実施し、参考指標とならないため、令和4年度の目標は平成30年度及び令和元年度の2年間の平均値としています。

実施目標については、例年どおりとしています。

[事務局・下田]：次に、25 ページをご覧ください。

令和4年度予算について、前年度比で大きく動きがあった部分を中心に説明させていただきます。

上の表「使命・目標別歳出予算」をご覧ください。

こちらの分類では、前年度と同様の予算となっており、大きな変化はありません。

次に、下の表をご覧ください。

歳入欄、観覧料の約500万円の増についてです。理由は大きく2つございます。

まず、1点目ですが、企画展の観覧料について、今年度は6つの企画展のうち、4つで「大人一般 一人1,100円」としていました。これを、市役所財務課と協議を行い、

令和4年度は6つのうち3つで「一人1,300円」と設定することとなりました。

2点目は、年間目標観覧者数の増によるものです。例年の「11万人」から1万人増とし、「12万人」を目標にしています。

次に、歳出欄についてです。

給与費の約750万円の減については、事務職員1名減によるものです。

次に、展覧会事業の約790万円の増については、運慶展関連イベントとして、美術館地下の展示スペースで「能楽公演」を実施するための費用の増によるものです。具体的な開催日や内容は、年間スケジュールに記載がございますので後ほどご覧ください。

そして、管理事業の約1,690万円の減については、工事請負費の減によるものです。来年度は、今のところ大きな工事を実施しない予定となっています。

令和4年度事業計画書案の説明は以上となります。

[小林委員長]：それでは、委員の皆様、事務局から説明のありました事業計画案について、ご意見やご質問がありましたら、お願いします。

まず、「①広く認知され、多くの人にとって横須賀市を訪れる契機となる。」についていかがでしょうか。

[柏木委員]：最も大きなポイントは教育委員会から市長部局に移管されるということであると思うが、指定管理者制度の導入を想定して、ということなのでしょうか。美術館はいわゆる登録博物館であり、市長部局に移ったことによる影響はあるのでしょうか。

[下田]：特に市長部局に移ったことによる影響はございません。

[柏木委員]：観覧料収入で展覧会事業費をまかなうため、受益者負担や観覧者数を上げているようで、かなり予算上の目標としてはハードルが高くなり、さまざまな影響が出てくるのではないかと思います。そのあたりを学芸担当も含めてよく館内議論されたほうがいいのではないのでしょうか。

いつ指定管理者制度に移行されるのでしょうか。

[岡本課長]：指定管理者制度への移行は決まっておりません。市長部局への移管は、その前提での移管ではありません。

[柏木委員]：いずれにしても、段階的に観覧者数を増やして、受益者負担も増加させ、展覧会事業をすべてまかなうというのは、かなりハードルが高いことなので、よく判断して議論していただきたいと思います。

[岡本課長]：観覧料の設定についても、学芸担当も含めて協議した結果のものとなります。今回の金額設定はトライアルでありますので、結果をみて財務当局にフィードバックしていきます。

[小林委員長]：よろしいですか。

[小林委員長]：「②市民に親しまれ、市民の交流、活動の拠点となる。」について、いかがでしょうか。特にございませんか。

新型コロナウイルスの影響で、休館があったり、ボランティアの活動が中止になったりしていますが、いろいろな形で影響は出ていますか。

[岡本課長]：集まって活動することができないため、影響は出ています。しかし、その部分を補うため、オンライン化をできるだけ進めています。

もとの状態に戻ることも大切なことだが、オンラインによる発信も行うことで、進化させながら活動を進めていきたいと思っています。

[小林委員長]：「③調査研究の成果を活かし、利用者の知的欲求を満たす。」について、いかがでしょうか。

[鈴木委員]：12 ページに美術図書室運営事業について記載があるが、美術館図書室がとても好きで観覧料を支払わなくても雑誌や本に触れることができているのですが、友人は無料で使えることを知らなかったのので、ぜひもっと発信できることはないかと思っています。

もっと使っていただきたいという気持ちがあるので、利用者数をカウントしているようであれば教えていただきたいです。また、美術図書室の周知について、お考えになっていることがあれば、あわせて教えていただけますか。

[岡本課長]：図書室を無料でお使いいただけるということは、なかなか周知できておりません。すぐにできるものとしては、ホームページへの掲載や、展覧会スケジュールなどに掲載するなど、今後の課題として考えていきたいと思えます。

利用者数は、繁忙期で月 2,000 人程度、少ない時期で月 300 人程度となっています。

[小林委員長]：よろしいですか。

[小林委員長]：「④学校と連携し、子どもたちへの美術館教育を推進する。」について、いかがですか。美術館と学校とのタイアップはうまくいっているのでしょうか。

[三浦委員]：新型コロナウイルスの影響によりいろいろなことが中断してしまいましたが、ちょうど昨日、オンラインで、先生のための美術館活用講座に参加させていただき、新しい可能性が見えてきたような気がしました。

美術館と連携して実施した取り組みに関する横須賀の先生方の実践発表でした。周知期間が短かったこともあり、参加人数が少なかったことはもったいなかったが、内容と

しては非常に価値のあるものだったのではないかと思います。このような環境が整っているので、学校教育に活用していただけるとよいのではないかと思います。

[小林委員長]：横須賀美術館が当初から小中学校の美術館教育に力を入れており、横須賀総合高校とも連携しています。他の美術館には見られない関係ができており、学校教育に活かされているのではないかと思います。

ところがこの度、教育員会から市長部局へ移管されますが、横須賀美術館としての教育普及の伝統は、培った良いものがあるので、状況が変わらないように努めていただきたいと思います。

ここで議論されることはオーバーなものであるが、例えばイギリスなどのナショナルギャラリーに行くと、子どもたちの教育に開放されており、美術館で自由に寝そべて絵を見ている子どももいます。横須賀美術館は、子どもたちの教育、学校教育に当初からかなり力を入れてきた特徴があるので、ぜひその部分を活かして続けていただきたいと思います。美術は心の福祉でもあるので、一つよろしくお願いします。

[岡本課長]：必ず維持していきたい部分であります。この移管にあたり数々の議論を経してきましたが、必ず触れられる一番重要な意見です。当館は、市内の小学校全校の児童にお越しいただき、夏には中学生にもお越しいただいています。

また、学校現場では、全員にパソコンが配布されて、そのコンテンツを生かした取り組みも始まっています。ますます進化させていきたい取り組みであります。

[小林委員長]：よろしいですか。「⑤所蔵作品を充実させ、適切に管理する。」について、いかがでしょうか。

[柏木委員]：作品購入は素晴らしいことだと思います。ぜひ所蔵作品のコレクションがさらに充実しているということも、展覧会のチラシなどでも強くアピールして広報していただけたらと思います。

また、今年は15周年の年にあたるということで、さまざまな企画展で、周年の事業のアピールが大事になるのではないかと思います。そういった工夫をされて、より横須賀市民へのアピールをされることがさらなる発展に繋がるのではないかと思います。

市長部局への移管は、市長が持っている政策目標といかに美術館も関わっていくかという大きな転換が求められてくると思うので、これまで教育委員会の中で社会教育施設として行ってきたことに加え、さらに負荷がかかってくる可能性もあるので、館内でよく議論されてより良い美術館運営を行っていただきたいと思います。

[岡本課長]：社会教育施設としての使命を維持して、政策目標に圧迫されることがないようにしていきたいと思います。

広報については、美術館利用者の約7割が市外、約3割が市民となっており、もう少し市民の方にもお越しいただきたいと思っています。広報よこすか5月号では、1面を

使って市民に向けて周知していきたいと考えていきます。

また、横須賀こずえ展のチラシは、書店にも置いていただいております、チラシでしか読めない書き下ろしの漫画を載せており、続きはインスタグラムを見ていただくと完結する仕掛けとなっています。そこから美術館のことも知っていただく仕組みとして、できるだけ多くの市民の方に知っていただく工夫をしています。

〔濱田委員〕：ふるさと納税は、美術館に寄附することができるのでしょうか。また、何か返礼品があるのでしょうか。

〔岡本課長〕：おっしゃるとおりです。観覧料チケットとレストランコースの返礼品があります。

〔濱田委員〕：ふるさと納税は、横須賀市民はできなかったと思いますがいかがでしたか。

〔岡本課長〕：市民の方は、寄附はできるが、返礼品がない仕組みとなっています。

〔下田〕：どこの基金に寄附したいかという指定はできますが、希望がない寄附は一般寄附となります。それとは別に返礼品を選ぶことができますので、例えば美術品等取得基金に寄附するけれど、まったく関係ない返礼品を選ぶこともできます。

〔濱田委員〕：来館者の割合が市外7割ということは、チャンスではないでしょうか。

せっかくアンケートにどこから来ているかのチェック項目があるので、この用紙は回収してしまいましたが、市外の方へは「寄附もあります」とQRコードをつけて、後で読んでおいてもらうのもいいと思います。なかなか市外か市内か聞くことができるチャンスもこのアンケートくらいしかないと思います。

〔三浦委員〕：今年度の企画展を見てきた中で、内容は大人の鑑賞にももちろん耐え得るものですが、見せ方がとても子ども向けになっていると思いました。浮世絵展などは、吹き出しで子どもの興味を惹きつけるようなものになっており、横須賀の子どもたちを全員連れてきたくなりました。巡回展なので、もともとそういった作りになっていたのだと思うが、どこの美術館に行っても最近そのような傾向が強いと感じています。

先日、北斎館に久しぶりに行ってきたが、観覧者が自分で感想を吹き出しに書いて貼ることができる仕組みになっていました。もっと子どもたちを多く呼べるような仕組みを取り入れられると良いと思います。

小中学生は現在も無料ですが、シニア料金が設定されているように、例えば、子ども連れの世代がもっと利用しやすいような仕組みがとれるようになるにないかと思っています。障害者手帳をお持ちの方はお連れの方が1名無料になるように、子どもを連れていると割引になるとか、専門の方のご意見を伺いながらシミュレーションしてみてもいいのではないかと思います。

令和4年度から企画展の観覧料が200円の値上げになるとのことで、値上げの額としては大きいので、その分を緩和するようなイメージでしょうか。夏休みなどに社会実験のような形で始めてみて、どこでペイできるのか試してみてもいいのではないのでしょうか。市民対象でもよいのかもしれませんが。

私自身も小学生と中学生の親であり、子どもを連れてきて公園で遊ばせる環境も整っているのので、少しでも子連れ世代を呼べるようになると良いと思います。

[岡本課長]：子連れ割引という発想はなかったので、検討してみたいと思います。

[小林委員長]：美術品の収集方針(4)に「日本の近現代を概観できる作品」とあるが、近代と現代というのは歴史学の概念であるので、それなりに近代と現代の概念がありません。美術史の中に「近現代を概観する」というのは、風景としての「近現代の絵」のことを指しているのか、それとも美術史の上で近現代を体現するものがあるのでしょうか。

[工藤]：日本近代芸術というのは、一般的には明治時代から始まっていると考えられています。

美術史上を語るにふさわしい質の高い作品・作家は、ある程度限定されてきます。いわゆる芸術と言われるもの、あるいは、その作家で歴史を語ることができる作家が出てきた場合は、横須賀や三浦半島などの地域にこだわらずに収集していこう、ということで、「(4) 日本の近現代を概観できる作品」と掲げています。

地域ということだけではなく、日本の美術史というものを考えたときに、それを語るに相応しいものが出てくれば収集していこう、という趣旨としています。

[小林委員長]：前の3つの項目はよくわかるが、(4)は、概念が広域的、抽象的になっているので、美術史の上で「近現代を概観できる」という体現する概念があるのかなと思いました。また機会がありましたら、勉強させてください。

[小林委員長]：「⑥利用者にとって心地よい空間、サービスを提供する。」について、いかがでしょうか。

[鈴木委員]：子どもの頃からミュージアムに行くという考え方には、大いに賛成します。

アクセスしにくいことが一番にあるが、美術館にベビーを連れていくことで迷惑をかけてしまうのではと考えてしまう親御さんも多いと思います。ですので、ベビーの頃から美術館に触れ合えると良いのではないかと思います。

横須賀美術館は、授乳室もあり、トイレも乳幼児が一緒でも使えるようになっていて、サービスが行き届いていると思います。令和4年度は、託児サービスも実施すると記載があったので、どのように行われているのか教えていただけますか。

また、ベビーカーを押してどこまで歩くことができるのか教えていただけますか。

もう一つは、児童委員をしている友人から、横須賀市は、児童委員を中心に乳幼児と

一緒に行うプログラムを地域ごとに行っていると聞きました。本日のレジュメの中に「他部局との連携」という記載があったので、乳幼児にミュージアムに来てもらうというプログラムができれば、周囲を気にしないでお母さん方も美術館を楽しめる空間が作れるのではないかと思います。

〔岡本課長〕：参考となりますが、市立保育園9園と連携し、コロナ以前は学芸員が保育園に訪問していました。現在は来館していただき、興味を持ってもらう取り組みを実施しています。

新たな取り組みとしては、追浜地区で検討中ですが、保育園に作品を展示して、親御さんに見ていただいて興味を持ってもらい、招待券をお渡ししてお子さんと一緒に美術館に来ていただくことを考えています。

〔下田〕：託児サービスは、令和2年度、3年度はコロナの影響で見合わせていましたが、令和元年度までは、企画展ごとに1日程度の日程を決めて、募集を行っていました。

利用者は1～5人程度であります。保育士に委託料をお支払いして来ておりますので、もう少し利用率を上げたいと考えております。

コロナの感染状況が落ち着いてきたら、少しでも多くの方にご利用いただけるような体制を整えて再開していきたいと思えます。

ベビーカーについては、エレベーターもありますので、基本的には館内どこでもお使いいただけます。受付で貸出もしており、展示室内にもお入りいただけます。

〔岡本課長〕：他部局との連携については、図書館でブックスタート事業を行っています。それと同様なアートスタート事業のような取り組みもおもしろいかもしれません。検討してみたいと思えます。

〔鈴木委員〕：保育園との連携ももちろん大事なことです。母と子どもが2人で安心して美術館をまわれる、そういった様子を目にして、いい風景だなと思ったことがありました。ミュージアムスタートのようなプログラムがあるといいのではないかと思います。

〔川口委員〕：先日、ミロコマチコ展のライブペインティングイベントに参加しました。200人ほどの若い方々や家族連れが参加しており、天候にも恵まれ、開放的で素晴らしいイベントでした。こういった、大勢の若い方々を集めるイベントをこれからも開催していただきたいと思えます。

イベントが終わってから YouTube で結果を見られるのも良い取り組みだと思えます。

〔岡本課長〕：できるかぎり YouTube など発信できるように努力しています。令和4年度は、運慶展関連イベントとして行う能楽公演についてもアーカイブ公開できるよう、

検討を進めています。

〔川口委員〕：能楽公演は、何人程度の定員になるのでしょうか。

〔岡本課長〕：100～300 人程度となる予定です。多くの方にご覧いただくという観点でも、ライブ配信できると良いと考えています。

〔小林委員長〕：「⑦すべての人にとって利用しやすい環境を整える。」について、いかがでしょうか。福祉関連イベントや障害者対象のイベントなど、他の美術館と比べていかがでしょうか。

〔柏木委員〕：ご説明にあったように、数字的には、他館連携の事業が終了したり、オンラインに手法を変更したり、みんなのアトリエも対象を障害当事者にしたりしている。福祉関連事業はコロナの状況の中では、非常に取り組みが難しいと思います。その中でも果敢に取り組まれているので、数字的などころで変な形で判断されないと良いです。

〔小林委員長〕：他によろしいですか。では、「⑧事業の質を担保しながら、経営的な視点をもって、効率的に運営・管理する。」について、いかがでしょうか。

〔菊池委員〕：この項目は意識付けの部分であり、全員がこういった意識を持ちながらやるとういうことを明文化したもので、よくやっていると思います。

〔小林委員長〕：①から⑧までご意見を伺いましたが、全体を通してご意見はありますか。

〔濱田委員〕：スカジャン展について、小泉進次郎氏とのタイアップなどは検討していないのでしょうか。

〔富田〕：小泉進次郎氏のスカジャンは何種類かあり、そのうちいずれかを、という形の検討はしています。メーカーや事務所など関係者が複数あるので、まだ交渉中という状況です。

〔菊池委員〕：全体的な部分で誤解を恐れずに言うと、この事業計画書を受け取った率直な感想として、安心と物足りなさの両方を感じました。

安心した部分としては、この運営評価委員会でも皆さんが一番気にされていた、社会教育施設としての色合いが担保されているのか、という部分が踏襲されていたことの安心感がありました。

物足りなさとしては、4月から市長部局へ移管されるのであれば、社会教育施設としての原点をどうサポートしながら、市長部局らしさを加味して、どう相乗効果を生み出せるのかという部分だと思います。柏木委員もおっしゃっていたように、市長部局に移

管されることへの危機感がありました。皆さんが方向性を理解された上で事業計画を策定しないと、いきなり4月に事業計画がでてきたら大変なことになるのでは、と発言をしたと思います。

要するに、どういうプラスの効果があるのか、というところで、この事業計画が基本となっていくのだから、もっといい形にするために、他部局との連携がもっとあると良いと思います。市長部局にはさまざまな部局があるので、そういった部局の知恵を例えば文化スポーツ観光部が集約して、それぞれのイベントにどう関わって、集客や質に加味されていくのか、そういった部分があると、私としても、こういう方向性で社会教育の部分が担保されているのだなとわかります。

事業計画の内容はほとんど変わっていないが、運営側は館長が変わり、教育委員会ではなくなるので、館長の考え方がすごく反映されていくことになると思います。その変化がプラスに作用するのか、マイナスに作用するのか、この事業計画書では見えなかったもので、どのように見据えているのかお聞きしたいと思います。

[岡本課長]：非常に重要な部分であり、市長部局への移管した部分が、現時点で計画書に反映できていないことは申し訳なく思います。

市長部局に移管することで、これまで以上にいろいろな方に出会うチャンスが増加すると思います。現段階で、具体的なことはお示しできませんが、そういった機会が増える中で、より良い選択をして、より良いものを提供していくポテンシャルが秘められていると思っています。

[菊池委員]：ドラスティックに変えることはよくないと思いますし、守るべきことは守りながら、整理して、市長部局としての受け皿に置いておかないと、崩れるのではないかと思います。

運営がまったく変わった中で、教育委員会での光と、市長部局での光は、影も同じであるが、まったく違うと思います。そこが見えないのです。

運営が始まってからどう変化するのかがわからないといけないのではないのでしょうか。そのあたりの感覚は学芸員が一番敏感になると思います。

初年度は、様子見ではないですが、ボランティアの活動や学校行事などとても頑張っているが、学芸員の負担を市長部局でいかに軽減できるのか、最初はどううまくいかないと思うが、そういった具体的なサポート体制があらかじめ事業計画の中に必要ではないかと思っています。

[柏木委員]：市長部局になるというのは館に対しての大きなメッセージで、観光拠点になって来街者を獲得するポテンシャルが美術館にはあるだろう、という政策判断だろうと思います。そのポテンシャルを引き出す事業をする必要がありますよ、と言われているのだと思います。

これまでの教育委員会の中で活動を展開してきた基盤を崩さずに、そことのバランスをとりながら、市費が投じられている美術館であるので、市の大きな政策の中で何がで

きるのか、できないのかを、今年度は難しいと思いますが、次の事業計画あたりでは色を出していく必要があるのではないかと思います。それが美術館の場合こういった形になるのか、館の個性を見極めながら、館内でよく議論されていく必要があると思います。

[佐々木館長]：教育委員会だけではなく、市長部局も絡めて社会教育活動を行っていいのではないかと考えての移管となります。社会教育施設としての役割は変わることのないようにしていこうという流れのもとで、今回の事業計画を作成しています。

現状、教育委員会にある美術館が市長部局と連携しながら令和4年度の事業計画を作成している段階であり、先が見えていない部分もあります。移管をしてどのようなことができるのかという部分は令和4年度に模索することとなります。

おっしゃるとおり政策目標があり、観覧者数を実施計画に位置付けていますが、7割の市外の方々に観光でもっと来ていただきたいという部分もありますし、他部局との連携により市内の方々にもさらに来ていただきたいと思っています。まさに1年後の事業計画にカラーが見えてくるようになっていなければいけないだろうと、なっていないければなかなか難しいところだと、ご意見を伺いながら思っています。

[小林委員長]：市長部局への移管について、危惧しているところがあったが、実際にこのような事業計画書が出てきて、今までと基本的な線は変わらないのだろうと楽観視して意見を伺っていました。

菊池委員、柏木委員のご意見は大変深く重要なことであると思います。横須賀美術館のあり方として、経済性だけを考えると美術館の本質的な部分を失ってしまう部分があると思います。学芸員の方々の努力や、横須賀美術館の場合はそれに関わっているボランティアさんの意味など、独自の横須賀美術館らしい動きがあると良いと思います。所蔵作品はあまりないけれども、しかし、ものすごく努力している、それが横須賀美術館の価値、新しい美術館の生き方であり、市の財政が大変厳しい状況のなかで、一つの最大限の工夫だと思っています。ただ合理的に切られてしまうようだと行政の仕事としてどうなのかという問題は残っていますが、運営評価委員会としては、基本的な問題についてはすでにいろいろな形で教育委員会側と市長部局側で議論して、新しいものを打ち立てられるのだろうと理解しています。

非常に大切な活動をしてきていることを踏まえながら、基本的な理念に対して将来どうあるべきかを考えていただきたいと思います。

[菊池委員]：濱田委員も同じだと思うが、観覧料の値上げをすることに対する意識、200円の精神的価値は全然違って、壁ができることになります。できれば値上げはしたくないし、値上げするとすればその分どれだけプラスアルファのサービスを付加するかを考えるのが、民間の発想だと思います。

企画展を観覧料収入でまかなうことは、絵にかけば簡単な話だが、実際には難しいことです。来館者にこれまで以上の負担を強いるということをもう少し真摯に考えたほうが良いと思います。

200 円の価値をどこで生み出して、どこで提供できるのか、難しいことではあるが、向き合っていく必要があると思います。

親子割という話もあったが、増やした分どこかでバランスをとって補填していき、トータルでこうなるんだ、という計画的なものがないといけないと思います。

[佐々木館長]：少し簡単に書きすぎているところがあるかとは思いますが。値上げという言い方をすると、同じものが 1,000 円だったのに 1,200 円になると見えてしまうかもしれませんが、展覧会と一言で言っても同じものはありません。

この展覧会をいくらでご覧になって満足していただけるかに尽きると思います。1,000 円で安くて良かったなと思うのか、1,200 円払ったら高かった、値段ほどでもなかったなと思うのか、満足度はアンケートではかっており、この満足度が下がらないようにしていかなければならないと思っています。支払った額と同等、またはそれ以上に良い展覧会だったと思っていただけるような展覧会にしていけることが根底にあります。

[菊池委員]：そのとおりだと思います。ギフトと一緒になので、それを価値として認める人であればその金額を支払うし、認めなければ支払わないので、つまり集客の数に影響してくることになります。そのあたりのバランスを考えながら計画を考えていかないと、数字×何人ではなかなかうまくいきません。

どういう方々に価値を認めてもらうのか、というマーケティングが求められてくると思います。

[岡本課長]：価格設定については、担当学芸員もどういった方々をご覧になれるかを考えていますが、価格を上げるのであればご指摘のとおりもっと深く考えていく必要があるのかと思います。

[川口委員]：先日、六本木のメトロポリタン美術館に行ってきましたが、2,200 円でもとても満足しました。というのも、人数制限をしていることもあり、時間予約だったため、一つ一つの作品をじっくり見られました。作品ももちろん素晴らしいですが、じっくり見られる状況ができていところにも価値があると思いました。

[菊池委員]：これも貴重なご意見だと思います。ゆっくり見られる環境をつくることも価値であります。それを価値としているのであれば、何を価値として価格に転化しているのか、表現してあげる必要があると思います。

[川口委員]：コロナ対策として時間制限を設けているのだと思うが、それによってゆっくり見たい人にとっては、かえってスムーズで嬉しい状況ができています。

[小林委員長]：行政が運営している美術館とは何だろうという、基本的な美術館の在り方を最低限押さえておかないといけないのだと思います。数字×人数といった経営主義な

考えだけでなく、基本的な部分を考えていかないと、移管されたことによる問題が起きるのではないかと思います。

〔柏木委員〕：六本木や上野で行っているようなメディアが行う展覧会の事業設計と、横須賀美術館が行う展覧会の事業の構造は、まったく違うと思います。全体的にみると、展覧会の入場料金は上がっています。

この美術館で来館者に対する入場単価を上げる、ということ、経営的に成功させるためにどのような戦略を行うか、というのは、六本木や上野とは違う論理で考えていく必要があると思います。

一方で、コロナの時代で、入場者数を制限しながら、代わりに会期を長くとするという考え方は、一つの考え方としてコロナが収束しても残っていくものだと思います。鑑賞環境を担保していくことは、一つの付加価値だと思います。

〔三浦委員〕：10年以上前、指導主事という立場で横須賀美術館と関わっていた頃、今と同じように他部局からいろいろなプレッシャーの波が押し寄せていて、例えば、谷内館を結婚式場にしてしまおう、とか、いわゆる伊豆高原など観光地にあるような体験コーナーにしてしまおう、などという話がでていたことを当時、小耳にはさみました。他部局がそこまでのことは言ってこないだろうと思いますが、少し心配しています。

個人的な感覚として、箱根だったらポーラ美術館なら許せる、熱海だった MOA 美術館なら許せる、などと思っています。美術の専門ではない人に対しても、このあたりまでは死守しないといけないという線を、学芸員中心に決めて、他部局に向き合っていたらいいと思います。そうしないと、長い目で見たときに大切なお客さんが逃げていってしまいます。

スカジャン展あたりがギリギリではないかと考えています。これをどう価値づけられるかだと思います。これまでと違った客層の方が集まることは良いのかもしれませんが、ここで展示することを価値づけおかないと、こういったところから崩れてしまうと思います。

〔岡本課長〕：スカジャン展は、地域の歴史と技術に根差したものであります。

〔三浦委員〕：どういう見せ方をするかが大事になってきます。

〔小林委員長〕：美術館の基本的な部分であるので、本来は運営評価委員会で議論すべきことではないかもしれませんが、大変重要なことが話されています。当局の皆さんにとっては大変でしょうが、委員の皆さんが心配していることですので、心に留めておいてください。

【3 その他（1）来館者アンケートの見直しについて】

[小林委員長]：次に、「3 その他（1）来館者アンケートの見直しについて」事務局から説明をお願いします。

[事務局・下田]：

まず、本日、机上に配布しました「横須賀美術館運営評価委員会 委員からの提案とその対応について」をご覧ください。

「委員からの提案とその対応について」は、令和2年度第3回から令和3年度第2回までの会議にて、委員の皆さまからいただいた提案と対応を記載しております。

裏面の令和3年度第1回会議にていただいた「アンケートについては、母数が少なすぎるとミスリードしてしまい、声の強い人の意見に左右されてしまうことがある。」というご意見については、10月25日より、受付でチケットを購入した来館者に対して、アンケート及びクリップペンの配布を行い、受付係員から「アンケートにご協力ください」と声を掛けてもらうようにしています。

土日は来館者が多く、チケット購入列ができてしまう場合があるので、平日のみの対応としています。

また、「三浦市には美術館がないため、三浦市の子どもたちは美術作品に触れる機会が少ないはずである。」というご意見については、それ以降の企画展から、三浦市のみでなく、逗子、葉山の学校にポスターとチラシ、加えて、引率の先生に下見に来ていただけるように招待券をお送りしています。今後は、企画展ごとにこうした取り組みをしていきたいと考えています。

次に「アンケートの見直し案」についてです。

まず、受付で配布したことによる効果をご報告します。令和3年度の回収数は3月28日現在1,849枚で、コロナの影響のなかった平成29年度は1,535枚、平成30年度は1,027枚、令和元年度1,242枚となっていますので、例年の約1.5倍増加したことになります。受付での配布は10月から実施しましたので、通年で取り組みを続けたら、より回収数が増えることが予想されます。

アンケートの改正部分は、「5 美術館の利用しやすさ・快適さ」について、変更前の（2）と（3）2つの項目を1つにまとめています。

「8 当館や展覧会について、何でお知りになりましたか？」について、ウェブサイト、SNSの項目を美術館とそれ以外のものに明確に分けています。

「10～12」は追加項目となります。「10 館内 Wi-Fi を使用しましたか」「11『ポケット学芸員』を使用しましたか」は、令和2年7月に整備したWi-Fiに関するもの、「12 本日、横須賀美術館以外の観光スポットに行かれますか？」は、文化スポーツ観光部へ移管することも踏まえ、美術館だけではなく、他の観光スポットについても質問しています。

[小林委員長]：来館者アンケートの見直しについて、委員の皆様から何かありますでし

ようか。

〔濱田委員〕：今回の改正部分ではないのですが、実際に自分で回答してみようとした際に、1～3の項目すべてに「(2) 観覧料はちょうどよい額である。」の項目があります。企画展に入った場合は、所蔵品展、谷内館に無料で入れるため、企画展のチケットを購入した方は「2 所蔵品展」(2)は回答しにくいのではないかと思います。

1～3から(2)の項目は削除して、4に観覧料の項目をまとめてしまってはどうでしょうか。例えば、「1 企画展」には回答しないで「2 所蔵品展」のみ回答していれば、「4 観覧料」の項目は、380円のチケットに対する回答であることが集計側にはわかります。

企画展1,300円のチケットを購入して全て観覧した方にとっては、所蔵品展がいくらなのか、内訳がわからないので、回答しようがないと思います。自分だったら、1,300円で所蔵品展は高いと付けてしまうと思うので、「高い」という回答が多いから所蔵品展を値下げしなければ、といったミスリードになりかねません。

途中で変えるとデータが取りにくくなってしまいますのであれば、難しいかもしれませんが、はっきりわかるようにするには、企画展、所蔵品展、それぞれに対する観覧料ではなく、今日の観覧に対する回答として、集計する人が裏でわかればよいことだと思います。

ふるさと納税のPRとして、市外の方はぜひご協力ください、ということをぜひQRコードで載せていただけると良いと思います。

〔菊池委員〕：濱田委員にお聞きしますが、ホテルの宿泊者も美術館に来ているのでしょうか。

〔濱田委員〕：聞かれることは多いので、結構来ているのではないかと思います。美術館目的で来られる方もいますが、ホテルの割引を利用してどこかおもしろいところがないかと聞かれたら、美術館をご案内しています。

〔柏木委員〕：「5 美術館の利用しやすさ・快適さについて」で、判断の基準として「作品鑑賞に適した環境」に特化した理由はあるのでしょうか。美術館相対の快適さを図るのではなく、作品鑑賞に集約した意図が何かありますか。

〔下田〕：項目をまとめるにあたって、最も中心である展示について書かせていただきました。

〔柏木委員〕：そのお客様の反応をみたいということでしょうか。

〔下田〕：そうです。

〔柏木委員〕：「12 横須賀美術館以外の観光スポット」の項目については、ホテルの話もありましたが、美術館に来た人が地域のどこへ行くのかの把握は、今後は館としても必要であり、求められると思います。

〔濱田委員〕：どういうところと相性が良いのか見ていくとおもしろいと思います。来場人数だけではなく面で捉えて、ここだけに来て帰ってしまうと市にお金は落ちないので経済効果はあまりないが、この後ソレイユの丘や三崎のほうに行くとなれば、1日滞在することになるので、横須賀・三浦として、経済効果があることになり、存在価値があると考えての発言でした。ですので、この項目は良いと思います。

〔柏木委員〕：どこと連携するかということが見えてくるとと思います。

〔鈴木委員〕：アンケート結果をどこかで見せてもらうことはできますか。

〔下田〕：令和4年度第1回会議でお示しする、運営評価報告書の参考資料集を委員の皆様にはお配りします。

【3 その他（2）今後のスケジュールについて】

〔小林委員長〕：次に、「3 その他（2）今後のスケジュールについて」事務局から説明をお願いします。

〔事務局・下田〕：それでは、資料1「運営評価委員会スケジュール」をご覧ください。

まず、本日第3回会議では、令和4年度の事業計画書案について、ご確認いただきました。

この会議で委員の皆様から頂戴したご意見を参考に、事業計画案をさらに詰めた上で、新年度には完成したものをご提示いたします。

また、令和3年度事業の評価については、新年度になってから事務局において1次評価を行った後に、委員の皆様にご2次評価をお願いする予定です。

新年度の第1回会議では、2次評価をもとに皆様に議論していただき、評価が決定した後に評価報告書を完成させるという流れになります。

第1回会議の日程については、改めて日程調整のご連絡をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

今後のスケジュールについては、以上となります。

〔小林委員長〕：今後のスケジュールについて、委員の皆様から何かありますでしょうか。

〔小林委員長〕：濱田委員が退任されるということで、一言お願いいたします。

〔濱田委員〕：1年9か月、観音崎京急ホテルの社長を務めさせていただき、この運営評価委員会委員もやらせていただきました。もう少し続けたかったところですが、4月1日付けでの異動が決まりました。

思い返せば、コロナに振り回された2年間で、難しい課題に取り組んできたように思いますが、私が意見したことや提案したことにも対応していただきました。すぐに対応していただいたことが、市役所らしくないと言いますか、民間のような速さで対応していただき、頼もしいなと思いました。

後任は、私の前任が草川という者でしたが、その前に観音崎京急ホテルの社長をしていた安藤が、4月1日付けで着任します。

本日の委員会で私は最後となります。本当にお世話になりました。ありがとうございました。

〔小林委員長〕：佐々木館長も変わられるとのことですので、一言お願いいたします。

〔佐々木館長〕：美術館が4月1日付けで教育委員会から市長部局に移管となりますが、私自身も市長部局に異動となりました。美術館の所属する文化スポーツ観光部ではなく、衣笠地域を管轄する衣笠行政センターの館長となります。

委員の皆様には貴重なご意見をいただき、美術館の移管もありますが、新たな発展につながってきているものと確信しています。私は、美術館を外から見ながら、市長部局の中で、連携していければと思いますし、美術館の発展を支援していきたいと思います。ありがとうございました。

〔事務局・岡本課長〕：長時間に渡り、本日は、ありがとうございました。本日いただきましたご意見は、できるだけ早く対応できればと思っております。

来年度も引き続きよろしくお願いいたします。

〔事務局・下田〕：それでは、事務連絡を4点ほどお伝えします。

まず、本日の報酬ですが、後日ご指定いただいている口座に振込をさせていただきます。手続きの関係で、最長で3週間ほどいただきますので、ご了承ください。

2点目です。お車でお越しの方は駐車券の処理をさせていただきます。まだ未処理の方は、会議終了後、こちらでお預かりさせていただきます。

3点目です。現在、企画展「ミロコマチコ展」を開催しております。お時間の許される方は、この後、ご入館いただけますので、私までお声掛けください。

最後に、公用車で馬堀海岸駅までお送りします。ご乗車される方は、会議終了後、お荷物を準備していただき、こちらまでお集まりください。

事務局からは以上です。

〔小林委員長〕：それでは、これで本日の会議を終了いたします。ありがとうございました。